

東海地域経済懇談会へ参加

～鳥羽商工会議所 中村会頭が三重県連代表として発言～

東海商工会議所連合会、（一社）日本経済団体連合会、（一社）中部経済連合会の共催により、令和8年2月20日（金）『「投資牽引型経済」への転換を目指して』をテーマに、名古屋観光ホテルにて東海地域経済懇談会が開催され、三重県商工会議所連合会からは、各商工会議所 会頭5名、専務理事10名（県連専務含む）が参加しました。

冒頭に、東海商工会議所連合会（東海連）嶋尾会長から開会挨拶があり、続いて、日本経済団体連合会（経団連） 筒井会長から挨拶がありました。

懇談では、「テーマ1 産業競争力の強化」と「テーマ2 活力ある地域づくり」について、それぞれ問題提起と意見交換が行われ、三重県連を代表して鳥羽商工会議所 中村会頭がテーマ2において、『鉄道・船舶等移動手段の多様化による均衡ある国内観光の推進』と題して問題提起を行いました。



中村会頭は、国内旅行需要の拡大を促進するため、インバウンド向けに提供されている鉄道周遊券「ジャパンレールパス」の利用資格を、日本人にも拡大することについて、また、20年に1度の式年遷宮も予定されていることから、大型クルーズ船が接岸できるバースの整備について経団連の意見を求めました。

経団連からは、「量から質への転換」を図るべく、人材の確保と育成、オーバーツーリズムへの対応、自立型観光の展開（地方への分散）の3つの柱を掲げて政府へ提言を行っているとし、東海地域への期待として、地域内には、豊かな自然や食、歴史的な観光資源が豊富に存在している、これらを有機的に結びつけ、「周遊ストーリー」として昇華させることが重要であると指摘、また、今後予定されている大規模イベントを一過性のものに終わらせず、地域の魅力を発見する入り口として位置づけ、地域のファンやリピーターの



の確保、さらには「関係人口」の創出につなげる仕組みづくりを期待していると発言されました。



最後に、中部経済連合会（中経連） 勝野会長が閉会挨拶を行い、懇談会は閉会しました。